

## 令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

|      |    |      |    |      |    |      |
|------|----|------|----|------|----|------|
| 第2学年 | 国語 | 104人 | 社会 | 104人 | 数学 | 104人 |
|      | 理科 | 104人 | 英語 | 103人 |    |      |

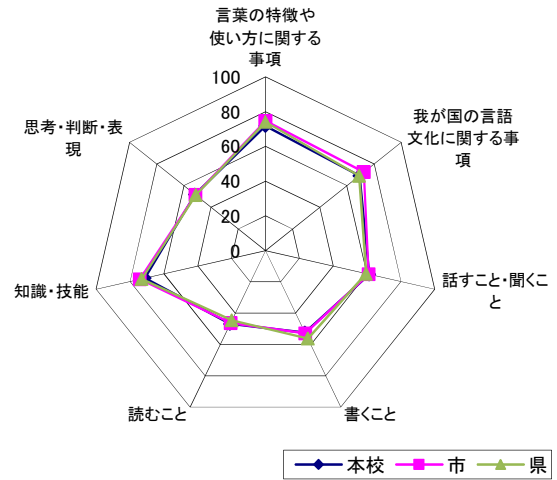
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立河内中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分              | 本年度  |      |      |
|-----|-----------------|------|------|------|
|     |                 | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 71.8 | 74.7 | 74.1 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項  | 69.2 | 72.5 | 69.1 |
|     | 話すこと・聞くこと       | 61.3 | 60.9 | 59.5 |
|     | 書くこと            | 52.4 | 52.8 | 56.2 |
|     | 読むこと            | 46.9 | 46.2 | 44.5 |
| 観点  | 知識・技能           | 71.3 | 74.2 | 73.1 |
|     | 思考・判断・表現        | 51.9 | 51.5 | 51.2 |



★指導の工夫と改善

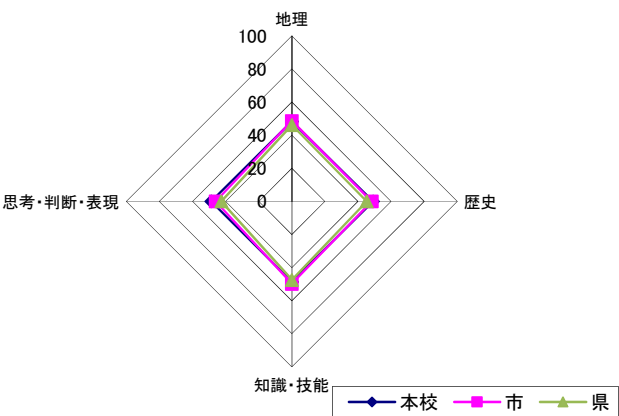
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分           | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                       | 今後の指導の重点                                                                                                                                                               |
|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 平均正答率は、県平均を2.3ポイント、市平均を2.9ポイント下回っている。<br>○漢字を読むことや書くことに関しては、どの問題においてもほぼ県平均及び市平均を上回る正答率であった。<br>●文法に関する問題、文節の関係については、市平均を5.6ポイント、県平均を5.3ポイント、敬語については、市平均を18.9ポイント、県平均を19ポイント下回った。                                                                             | ・今後も漢字に関して、読みだけでなく書くことや意味をしっかりと捉えさせ、基礎の定着を図っていきたい。<br>・文法については、適切に活用できる能力を育むため、日常生活で言葉遣いを意識するよう指導に努めていく。                                                               |
| 我が国の言語文化に関する事項  | 平均正答率は、県平均を0.1ポイント上回ったが、市平均を3.3ポイント下回っている。<br>○歴史的仮名づかいを現代仮名づかいに直す問題についての正答率は、県平均と同程度であった。<br>●漢字の行書の基礎的な書き方の理解については、市平均を5.3ポイント下回った。                                                                                                                        | ・古典においては、様々な文章に親しむ中で歴史的仮名遣いや古語の確認も取り入れていきたい。<br>・文章を繰り返し読み込んでいくことで、現代の意味の違いや古典の基礎基本の定着を図っていく。<br>・行書の特徴については、書写の時間を活用して、定着化を図る。                                        |
| 話すこと・聞くこと       | 平均正答率は、県平均を1.8ポイント、市平均を0.4ポイント上回っている。<br>○話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるかどうかをみる問題については、市平均を10.6ポイント、県平均を12.9ポイント上回った。<br>●必要に応じて記録しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題については、市平均を5.3ポイント、県平均を5.4ポイント下回った。                                                    | ・普段の授業から相手が話す内容を聞き取り、重要だと思われる部分に対して、メモを取る習慣を付けさせていくことで、自分の考えをまとめる能力の定着に繋げていきたい。<br>・相手の意見を踏まえ、自分の考え方を整理する場を意図的に設けていく。また、互いに意見を交流する場を提供することで、物事を多面的に捉えることができる広い視野を育みたい。 |
| 書くこと            | 平均正答率は、県平均を3.8ポイント、市平均を0.4ポイント下回っている。<br>○自分の考えを根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題についての正答率は、県平均を1.1ポイント下回ったものの市平均を2.9ポイント上回った。<br>●指定された長さで文章を書くことができるかどうかをみる問題についての正答率は、県平均を6.9ポイント、市平均を3.2ポイント下回った。                                                                 | ・自分の考えを指定された条件の下で表現していくためにも語彙力や表現力を身に付けていく必要がある。他の領域と関連性をもたせ、「書くこと」の場の提供をしていきたい。                                                                                       |
| 読むこと            | 平均正答率は、県平均を2.4ポイント、市平均を0.7ポイント上回っている。<br>○情報と情報の関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈することができるかどうかをみる問題についての正答率は、約7割であり、場面と場面、場面と描写を結び付けて内容を解釈することができるかどうかをみる問題についての正答率は、県平均を9.6ポイント、市平均を5.9ポイント上回った。<br>●場面の展開や登場人物の心情の変化について捉える問題についての正答率は、県及び市を上回ったものの、13.5パーセントであった。 | ・説明的文章については、内容や要旨を正確に読み取り、簡潔にまとめていくために、文章中のキーワードや相違点、論点などを読み取る機会を増やしていきたい。また、文学的文章については、場面の展開や登場人物の心情の変化について、描写と結び付けて読み取る機会を増やしていく。                                    |
|                 |                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                        |

宇都宮市立河内中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分       | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 地理       | 48.3 | 48.6 | 46.2 |
|     | 歴史       | 49.1 | 48.3 | 45.3 |
| 観点  | 知識・技能    | 48.6 | 49.8 | 47.5 |
|     | 思考・判断・表現 | 48.7 | 46.1 | 42.7 |



★指導の工夫と改善

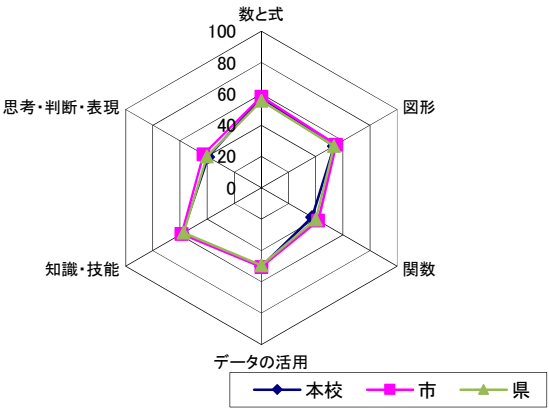
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                   | 今後の指導の重点                                                                                                                                                             |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地理    | 平均正答率は、県平均を2.1ポイント上回り、市平均を0.3ポイント下回っている。<br>○多くの問題で、県・市を上回っている。特に、三大洋と六大陸の名称と位置関係について理解しているかどうかをみる問題では、県平均を7.8ポイント、市平均を5.4ポイント上回っている。<br>●アフリカ州の国々の国境が定められた経緯について理解しているかどうかをみる問題が、県平均を5.5ポイント、市平均を9.7ポイント下回った。           | ・今後も基礎・基本的な内容をしっかり捉えさせ、理解力の向上に努めたい。<br>・単元ごとに、レポートを書き、その内容について質疑応答をする学習活動を継続して行っている。この学習活動と、複数の資料等を関連付けたり、既存の学習内容と関連付けたりすることとおして、特色や相互の関連等を考察する能力を育みたい。              |
| 歴史    | 平均正答率は、県平均を3.8ポイント、市平均を0.8ポイント上回っている。<br>○多くの問題に関して、県・市平均を上回っている。特に、弥生時代のムラについて理解しているかどうかについての問題では、県平均を16.3ポイント、市平均を17.1ポイント上回っている。<br>●歴史において、中大兄皇子が行った事業と、関連する場所を示す資料について判断しているかどうかの問題では、県平均を7.2ポイント、市平均を11.3ポイント下回った。 | ・今後も基礎・基本的な内容をしっかり押さえ、理解力の向上に努めたい。<br>・小学校社会科との接続を意識し、世界の歴史を背景に、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目させる学習活動を話し合い活動をとおして行うことで、それぞれの各時代の特色を様々な角度から大きく捉えさせる一助としたい。 |

宇都宮市立河内中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分       | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と式      | 57.6 | 58.2 | 55.5 |
|     | 図形       | 53.4 | 55.1 | 53.5 |
|     | 関数       | 37.4 | 41.9 | 40.2 |
|     | データの活用   | 50.2 | 50.5 | 49.4 |
| 観点  | 知識・技能    | 58.3 | 58.8 | 57.3 |
|     | 思考・判断・表現 | 39.3 | 42.7 | 40.3 |



★指導の工夫と改善

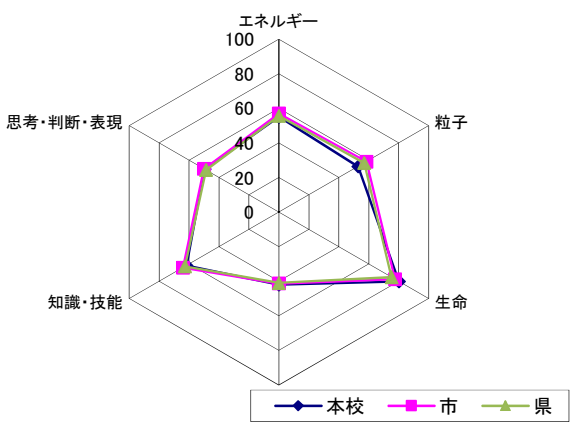
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況                                                                                                                                               | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と式    | 平均正答率は、市の平均とほぼ同じ。<br>○「負の数の累乗の計算をする」の問題では、市の平均正答率より4.9ポイント、「100個ずつ基石を並べたときの使った基石全部の個数を求める」問題では7.0ポイント高い。<br>●「1次式の減法を計算する」の問題では、市の平均正答率より8.7ポイント低い。  | ・基本的な計算問題の正答率は高く、定着しているようである。しかし、対応するものを選ぶ問題や数学的に説明するような問題では正答率が下がる傾向がある。特に集合に関しては、苦手意識をもっている生徒が多い。<br>・今後は、ドリル学習だけではなく、計算方法や計算順序を説明させるような授業展開を心掛け、筋道を立てた考え方の育成や式を用いた説明をとおして言語活動の向上につなげていきたい。                                            |
| 図形     | 平均正答率は、市の平均とほぼ同じ。<br>○「おうぎ形の弧の長さについて、半径が等しい円の円周の何倍であるかを考える」の問題では、市の平均正答率より4.6ポイント高い。<br>●「円柱の側面積を求める式について、当てはまる言葉を考える」の問題では、市の平均正答率より9.7ポイント低い。      | ・面積や体積を求める問題に関しては、おおむね理解できており、正答率も高い。しかし、円の面積を求めて比べる問題などにおいては、まだ理解が不十分である。<br>・今後は、生徒の理解度に応じた学習プリントの作成や活用、自己の理解度に応じたプリントを選択できる能力、生徒が分かったと実感できる授業展開の工夫などを心掛けていきたい。                                                                        |
| 関数     | 平均正答率は、市の平均より4.5ポイント低い。<br>○「与えられたグラフをもとに、正しいものを選ぶ」の問題では、市の平均正答率より6.7ポイント高い。<br>●「与えられた考え方をもとに、その式をかく」の問題では、市の平均正答率より10.4ポイント低い。                     | ・関数は4つの領域の中で最も苦手意識をもつ傾向が強い。「関数とは何か」、「比例と反比例の違い」、「グラフを読み取る力・グラフを利用して考える力」など、関数は今まで学んだ知識を様々な場面において活用する能力が必要である。<br>・今後は、公式を利用して形式的に答えを求め、正解かどうか目的の中心ではなく、どのような過程を経て正解が求められたのかを説明するような授業を心掛けたい。タブレットを活用することで視覚的に理解することをおして苦手意識の克服につなげていきたい。 |
| データの活用 | 平均正答率は、市の平均とほぼ同じ。<br>○「ヒストグラムの山の形が異なる理由について、当てはまる言葉を答える」の問題では、市の平均正答率より7.5ポイント高い。<br>●「ある階級までの累積度数が大きいヒストグラムを選び、その累積度数を求める」の問題では、市の平均正答率より7.0ポイント低い。 | ・学年の最後の単元であるため、理解が定着するまで繰り返し復習する機会が少なくなってしまう傾向がある。また、他の単元との関わりも多くないため、多くの問題に取り組む経験が計算分野に比べて圧倒的に少ないのが現状である。<br>・今後は、教科書の問題だけでなく、生活の中の事柄を相対度数や累積度数、最頻値などを使いながら考え、知識や技能を活用する授業をより多く実施していきたい。                                                |
|        |                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                          |

宇都宮市立河内中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分       | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | エネルギー    | 55.2 | 57.0 | 55.7 |
|     | 粒子       | 52.9 | 58.6 | 56.9 |
|     | 生命       | 80.1 | 77.5 | 75.2 |
|     | 地球       | 42.0 | 41.4 | 40.9 |
| 観点  | 知識・技能    | 61.7 | 64.1 | 62.8 |
|     | 思考・判断・表現 | 49.7 | 50.1 | 48.7 |



★指導の工夫と改善

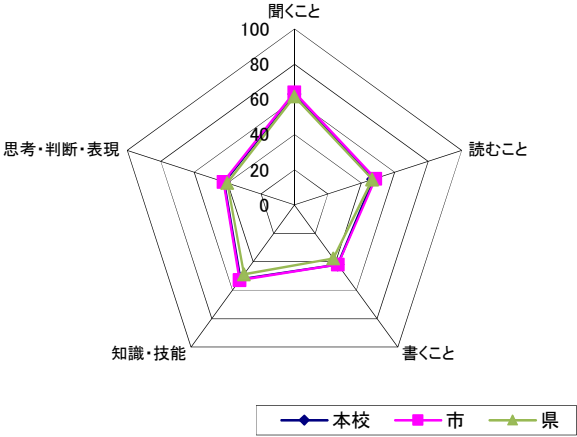
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                                                                                                          | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                    |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| エネルギー | 平均正答率は、県平均を0.5ポイント下回り、市平均を1.8ポイント下回った。<br>○「音の速さを使って音源までの距離を求める」問題に関して、県平均を2.1ポイント、市平均を1.6ポイント上回った。<br>●光について問う問題に関して、3つの設問全てにおいて県・市の平均を下回った。                                                   | 音の学習に比べて、光に関する内容の理解度が低い。光の学習内容は、日常的に実感している事実と、学習内容が結びつきにくいところである。ICT教材や実験をとおして、光の進み方、反射・屈折のときの規則性などを深く理解できるよう支援したい。また、作図への苦手意識が見受けられるため、問題演習を重ねて理解を深められるよう支援したい。                            |
| 粒子    | 平均正答率は、県平均を4ポイント下回り、市平均を5.7ポイント下回った。<br>○「実験で注意することとして正しくないものを選ぶ」問題に関して、県平均を2.8ポイント、市平均を1.9ポイント上回った。<br>●「酸素を発生させる方法を選ぶ」問題に関して、県平均を14.5ポイント、市平均を19.8ポイント下回った。                                   | 実験の注意点や実験からわかる考察についての問いでは高い理解を示している。一方で、知識や計算による設問の正答率は低かった。これは、興味をもって授業に取り組んでいる部分については理解できている者が多いが、学習内容としてまとめられている部分については理解できていない者が多いといえる。<br>できるだけ多くの実験を体験させたり、模擬実験として見せたりすることで理解を深めさせたい。 |
| 生命    | 平均正答率は、県平均を4.9ポイント上回り、市平均を2.6ポイント上回った。<br>○「葉脈について理解しているかどうか」の問題に関しては、県平均を8ポイント、市平均を11.5ポイント上回った。<br>●「肉食動物と草食動物の頭部のつくりを比較し、つくりと食べるものを結びつけることができるか」の問題に関しては、市平均を0.7ポイント下回った。                    | 植物や動物の重要な特徴や実験操作の意味は身に付いてきている。復習を行っていくことで知識をさらに定着させていきたい。<br>また、今後もさらに科学的なものの見方や考え方を養うために、実験や観察を中心に生徒が主体的に考える場を設定できるよう工夫したい。                                                                |
| 地球    | 平均正答率は、県平均を1.1ポイント上回り、市平均を0.6ポイント上回った。<br>○「火成岩の種類を推測し、マグマの色やねばりけと結びつけて考えることができるかどうか」の問題に関しては、県平均を8.1ポイント、市平均を8.3ポイント上回った。<br>●「資料をもとに各地点の地層のつながりを推測できるかどうか」の問題に関しては、県平均を5ポイント、市平均を5.6ポイント下回った。 | 苦手とする生徒が多い、資料をもとに各地点の地層のつながりや地層の傾きを推測する問題については、実物で実験できない内容であるため、モデル実験を取り入れたり、丁寧な問題演習を繰り返したりすることで、理解が定着するよう指導していきたい。                                                                         |
|       |                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                             |

宇都宮市立河内中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分       | 本年度  |      |      |
|-----|----------|------|------|------|
|     |          | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 聞くこと     | 63.0 | 64.0 | 61.6 |
|     | 読むこと     | 47.1 | 48.4 | 46.6 |
|     | 書くこと     | 41.9 | 42.0 | 37.8 |
| 観点  | 知識・技能    | 52.4 | 52.9 | 48.9 |
|     | 思考・判断・表現 | 42.0 | 42.4 | 40.1 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                                                                                                        | 今後の指導の重点                                                                                                                                                          |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 聞くこと  | 平均正答率は、県平均を1.4ポイント上回っているものの市平均を1ポイント下回った。<br>○「対話の内容を聞き取り、適切に応答することができるか(昨日何をしていたか)」の問題に関しては、県平均を7.3ポイント、市平均を5.3ポイント上回った。<br>●「英文の要点を聞き取り、適切な答えを選ぶ(移動方法)」問題に関しては、県平均を1.1ポイント、市平均を5.5ポイント下回った。 | 日常的な場面における英語の表現に関しては、対話の応答も含めて理解が得られているようである。英語で授業を進めることを通し、英語で対話する場面をより多くしていきたい。<br>また、教科書本文の導入の際には教科書を開かずに要点を聞き取る活動を入れるなど、まとまった文章を聞き、概要を捉えることを意識した授業づくりをしていきたい。 |
| 読むこと  | 平均正答率は、県平均を0.5ポイント上回っているものの市平均を1.3ポイント下回った。<br>○「自分が置かれた状況などから、必要な情報を読み取ることができるか」の問題に関しては、県平均を5ポイント、市平均を2.6ポイント上回った。<br>●「短い文章の概要を捉えることができるか」の問題に関しては、県平均を5.2ポイント、市平均を4.1ポイント下回った。            | 必要な情報を読み取るための基礎的な語彙や表現を身に付けることで、読み取りで力が発揮できるように引き続き支援していく。また、生徒が興味を持つような資料や教材を提示することで、意欲的に概要理解に取り組ませていきたい。                                                        |
| 書くこと  | 平均正答率は、県平均を4.1ポイント上回っているものの市平均をわずかではあるが下回った。<br>○「疑問詞を正確に書くことができるか」の問題に関しては、県平均を16.6ポイント、市平均を7.5ポイント上回った。<br>●「一般動詞の三人称単数現在形を適切な形に変えて書く」問題に関しては、県平均を4ポイント、市平均を8.1ポイント下回った。                    | 無回答率が県平均、市平均よりも低いことから、「書くこと」に関して抵抗をもっている生徒が少ないと言える。そこで、より正確に書くことに重点を置きながら、さらに自分の考えや思いを伝える活動を繰り返し行っていきたい。                                                          |
|       |                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                   |



# 宇都宮市立河内中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

|                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1)学習について                                                                                                     |
| ①家庭学習                                                                                                         |
| ○「家で自分で計画を立てて学習している」「家で学校の宿題をしている」「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」について、肯定的な回答をしている生徒の割合は、県平均を上回っている。         |
| ●「家で学校の授業の復習をしている」「家でテストで間違えた問題について勉強をしている」について肯定的な回答をしている生徒の割合は県平均を下回った。                                     |
| ②学習時間                                                                                                         |
| ●平日「まったくしない」と回答している生徒の割合は8.7%で、県平均を上回った。                                                                      |
| ●学校園で定めている平日「2時間以上」と回答している生徒の割合は、21.3%であった。                                                                   |
| *引き続き、生徒が各自で取り組んでいる自主学習を継続的に取り組ませよう指導し、また、その内容として、復習やテスト等の間違い直しを中心とするよう助言し、学習習慣の確立や学習内容の定着を図る。                |
| (2)読書について                                                                                                     |
| ・1ヶ月の読書量                                                                                                      |
| ○「3冊以上」と回答している生徒の割合は、44.7%で県平均を上回った。                                                                          |
| ●「1冊も読まない」と回答した生徒の割合は、県平均より低いものの13.6%であった。                                                                    |
| *朝の読書の時間の有効活用とともに、図書委員からの呼びかけや「図書館だより」及び授業を活用し、読書の面白さや様々なジャンルの本を紹介することで、読書への意欲を喚起する。                          |
| (3)宿題について                                                                                                     |
| ○「宿題はやりたくなる内容だ」「宿題は自分のためになっている」について、肯定的な回答をしている生徒の割合は、それぞれ52.4%、93.2%と県平均を上回った。                               |
| ●「宿題の量はちょうどよい」と回答している生徒の割合は93.2%で、県平均を下回った。                                                                   |
| *宿題の量について、ものたりなさを感じている生徒には、自主学習の仕方をアドバイスすることで充実した家庭学習に取り組めるよう促し、多いと感じている生徒には、学力をつけるために必要であることを助言する。           |
| (4)学ぶ意欲について                                                                                                   |
| ○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「学習して身につけたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」について、肯定的回答をしている生徒の割合はそれぞれ77.7%、94.2%であり、県平均を上回った。 |
| ●「勉強していて『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」について肯定的回答をしている生徒の割合は、78.6%であり、県平均を下回った。                                       |
| *生徒の疑問を授業の学習課題にすることで、生徒の学習意欲を喚起する授業を構築していきたい。また、あらゆる現象に対して問いを立てることが課題解決につながることを指導することで、生徒の知識欲を高めていきたい。        |
| (5)学習態度                                                                                                       |
| ○「授業を集中して受けている」「友だちと話し合うとき、友だちの話や意見を最後まで聞くことができる」について、肯定的な回答をしている生徒の割合はそれぞれ90%以上であり、県平均を上回った。                 |
| ●「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意である」について肯定的な回答をしている生徒の割合は、約5割であった。                                                  |
| *授業では意見を発表しやすい雰囲気をつくることを引き続き行い、自分の考えを発表することは、自分の考えが広がることであり、授業では正答だけを求めているわけではないことなどを助言し、活気ある授業づくりに努める。       |
| (6)学校生活について                                                                                                   |
| ○9割以上の生徒が「学校のきまりを守っている」「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」について肯定的回答をしている。                                             |
| ●「毎日同じくらいの時間に寝ている」「早寝早起きを心がけている」についての肯定的回答は、約7割であった。                                                          |
| *規則正しい生活を心がけていくことを引き続き指導していく。                                                                                 |
| (7)自分自身のこと                                                                                                    |
| ○「人と話すことは楽しい」「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」「自分も持っている能力を十分に発揮したい」について、肯定的な回答をしている生徒の割合は、9割以上であった。                    |
| ●「将来の夢や目標をもっている」に「はい」と回答した生徒の割合は、約4割であった。                                                                     |
| *キャリア教育に関わる授業を通して、将来についての希望や見通しを生徒一人一人が作れるようにする。                                                              |
| (8)家庭生活について                                                                                                   |
| ○約9割の生徒が、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「自分は家族の一員だと思う」について、肯定的回答をしている。                                           |
| ●「普段(月～金曜日)4時間以上テレビゲームをしている、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしている」と回答した生徒が、それぞれ16.5%、12.6%であった。                    |
| *家庭での時間の使い方、テレビゲームの使用時間及び携帯電話やスマートフォンの使い方については、引き続き指導・助言をしていく。                                                |

## 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                     | 取組の具体的な内容                                                                                        | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                         |
|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動の工夫 | ①話し合い活動では、自分の考えを伝えるだけでなく、他者の意見をよく聞くことにも重点を置き、自分の考えと対比させるなどして、自分の考えを深めさせる。<br>②ICT機器を活用した言語活動の充実。 | ①「クラスでは発言しやすい雰囲気である」「授業ではクラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」に対する肯定的回答は約9割であった。<br>②「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」についての肯定的回答は、約8割であった。 |

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                                                     | 重点的な取組                                                                                 | 取組の具体的な内容                                                                                         |
|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 各教科領域について、「将来のために大切だと思いますか」についての肯定的回答が、46.6%から95.2%とばらつきが見られること。 | 生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基礎となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、キャリア教育の充実を図ること。 | ・学校の教育活動全体を通じた組織的かつ計画的な進路指導を行う。<br>・家庭及び地域や福祉、労働等の業務を行う関係機関との連携を十分に図る。<br>・ICTやゲストティーチャーによる情報の提供。 |